

情しき兵士を教え思ひあしと有るに尾張守所り左様
思召謀ひ見申へしそ一通を認め橋岡の宿所へせしむ
勅十命披見して四布版へ着言一門良等如何是き
と評定と陸基の作は縦令計略もせよ何程の事か
阿ふ人和睦ふかふ人と思ふなり以て後之方便に承へた
ふんと宣ふにわが橋岡是をす扱も云甲斐又尋ふ所
存ぬこれ程急成る事余も阿ふし向後睦友志智
味方此をを侵し其後やしくと七えふたふみ成り所
詮此美其より任せられし勅十郎返状を認め氏
家へ使者を渡ししを使者立渾り彼の返状を尾張守

披見しゆきも和睦成りしとて誂なり其座より有る諸
士一同おも橋岡の花も實も有る侍なりとてやんども我
光公宣ひききと程歟く敵を其後より差支さう計て
檢令軍の如く力責にききなりは人の計りはかりそ
即時より勝利有るより策事を以て勝利を要せん此友
門を越て戦ふと定て彼血氣に促せ出りてきなり味方
吉原に防ぎ戦ふて其時將くあ退る追及し味方
將軍兵取て返しきりく戦ひし退き敵を度壁にお
引出し其の隙より諸砲の上を二三人伏せき八方より
打ちし勅十郎も軍より謀るを悟ると飛鳥も打田